

## 名匠・井上誠一が愛した名門コース 「大洗ゴルフ倶楽部」の 支配人に聞く

～9月、日本女子プロゴルフ選手権大会開催！～

大洗ゴルフ倶楽部では今年9月、日本女子プロゴルフ選手権大会が開催されます。「日本屈指の超難関コース」と言われる当コースを、もはや世界トップレベルにある日本女子ツアーのプロたちはどう攻略するのか注目が高まっています。

設計者である名匠・井上誠一をして「得難い日本ゴルフコースの宝物」と言わしめた当倶楽部について、その歴史や魅力、今後の展望などについて、支配人の新井勝己さまにお話を伺いました。

(聞き手：弊社社長 大森 範久)



大洗ゴルフ倶楽部  
支配人

**新井 勝己**

(あらい かつみ)

### 「逆転の大洗」が名勝負を生む 難コースに挑む女子プロたちの奮闘ぶりに注目してください

— 開場72年を迎える大洗ゴルフ倶楽部ですが、日本女子プロのトーナメント大会は初開催ですか？

9月11日(木)から14日(日)までの4日間にわたって「ソニー日本女子プロゴルフ選手権大会」が当倶楽部で開催されます。

国内男子プロは、長らくダイヤモンドカップゴルフ(三菱ギャラントーナメント)\*を開催しているほか、1960年(昭和35年)の日本プロゴルフ選手権大会、1998年(平成10年)の日本オープンゴルフ選手権競

技などのメジャー大会も会場となりました。一方、日本女子プロゴルフ協会(JLPGA)主催は、メジャー



大洗ゴルフ倶楽部  
IBARAKI 2025 9.11(THU)-14(SUN)

ソニー日本女子プロゴルフ選手権大会  
2025.9.11(木)～9.14(日)  
賞金総額 20,000万円  
優勝賞金 3,600万円  
出場人数 132人(予定)  
決勝進出順位 R2終了時60位タイまで(予定)  
主催 一般社団法人日本女子プロゴルフ協会

\*大会名(三菱ギャラントーナメント→三菱自動車トーナメント→ダイヤモンドカップトーナメント→三菱ダイヤモンドカップゴルフ→ダイヤモンドカップゴルフ→アジアパシフィックオープンチャンピオンシップ ダイヤモンドカップゴルフ) 大洗GCでは、'79、'86、'93、'96、'01、'03、'04、'07、'09、'13、'22の計11回開催



海に向かって打つ 16番ホール PAR3

どころか女子プロトーナメント自体初めての開催となります。2022、24年（令和4、6年）にJLPGAの最終プロテストの会場となったご縁などもあって、今回の開催となりました。

万全の体制で開幕が迎えられるよう、準備を進めています。テレビ中継もされますが、是非ご来場頂き、世界でも活躍する技量を持つJLPGAの女子プロたちが名匠・井上誠一による日本屈指の超難関コースをどう攻めるのか、実際のプレーを生で見たいと思います。

### ——大洗といえば、今までの男子プロトーナメントで数々の名勝負が生まれていますね。

大会3日目にトップに立った選手が優勝できないというジンクスがあり、いつしか「逆転の大洗」と呼ばれるようになりました。首位を死守したいとの思いが頭をよぎり始める15番パー5から最終18番ホールにかけて逆転劇が起こるため、プレーヤーにとっても観客にとっても、最後の最後で手に汗握る波乱の試合展開となるわけです。歴戦のプロといえども守勢に入ると守り切れない難しさがあると言えるのではないのでしょうか。

例を挙げると、最も古い記録では、1960年（昭和35年）の日本プロゴルフ選手権大会は36ホールの

マッチプレーでしたが、26ホールを消化した段階で3ダウンしていた棚網良平プロが35ホール目で逆転し劇的な優勝を遂げました。

計11回開催しているダイヤモンドカップ（三菱ギャラントーナメント）では、1996年（平成8年）大会にジャンボ尾崎（尾崎将司プロ）が日本記録となる最終日8打差からの大逆転優勝。2001年（平成13年）大会では、予選を最下位で通過した伊沢利光プロが決勝ラウンドを猛チャージにより追いつき、プレーオフで逆転優勝。最後の同大会となる2022年（令和4年）大会は今村周吾プロが最終日に終盤の波乱により2位タイから逆転優勝を飾っています。

また、1998年（平成10年）のメジャー大会・日本オープンでは、田中秀道プロが3打差を逆転して国内メジャー初優勝を果たしています。2打のリードで迎えた最終ホール、田中プロはティーショットを林へ



1998年 日本オープンゴルフ選手権 in 大洗ゴルフ倶楽部（茨城）  
1998年日本オープン 18番ホール 田中秀道プロの第3打目



大洗ゴルフ倶楽部（設計者：井上誠一）  
 公表 18H 7,205Y・P72 コースレート 74.9  
 (未公表 18H 7,350Y・P72 コースレート 未取得)  
 ※2023年 チャンピオンティー新設

打ち込み、2打目は前方の松に当たってさらに林の奥へ。第3打で起死回生のミラクルショットを放ち、優勝を手にしました。再逆転される可能性があった絶対絶命の中でのこの第3打の決断と結果は今でも語り草になっています。

今回の日本女子プロゴルフ選手権大会では、どんなドラマが展開されるのか。歴史的瞬間を間近で見られるチャンスですので、ぜひご来場いただければと思います。

## 1953年（昭和28年）開場

### 日本では珍しいシーサイドリンクスと豊かな黒松林を生かした戦略的なコース

#### — 倶楽部開設の経緯を教えてください。

大洗ゴルフ倶楽部の開場は、1953年（昭和28年）10月です。

1950年代初頭、当時の茨城県知事・友末洋治氏は、海水浴客で賑わう夏場以外も大洗を活性化できないかと考え、ゴルフ場の建設を計画しました。ゴルフ場用地は、すべて茨城県と大洗町の公有地です。そういった意味では当倶楽部は地方創生の先駆事例といえますね。

コース設計は繰り返しになりますが、ゴルフ場設計の第一人者・名匠・井上誠一氏です。

じつは井上氏は、コース設計の依頼を受ける前、偶然にこの地を訪れたそうです。初めてこの地をみた井上氏は、起伏のある砂原とどこまでも続く黒松美林群に魅了され、自ら“夢の園”と名付けたそうです。おそらくゴルフ場設計家から見たこの地はゴルフ場として理想の地であったのでしょう。のちに友末県知事から「“夢の園”の地をゴルフ場にして欲しい」旨の設計依頼を受けた時の喜びは他人には図りしえないものがあったと井上氏は寄稿文で当時の感動を述べています。

このようなエピソードから分かる通り、井上氏が当コースを設計するにあたっては、自分が思う“夢の園”の

魅力を出来得る限り残したオンリーワンのコースとすることに渾身を傾け、そしてその完成形に満足されたのがこの大洗ゴルフ倶楽部なのです。

いみじくも同氏のその想いは歴史が引き継ぎ、証明してくれています。どうか皆さんも一度ネットで「井上誠一、最高傑作」と検索してください。必ず“大洗ゴルフ倶楽部”と出るはずですよ。

### ——コースの特徴を教えてください

2023年のコース改修により「18ホール7,350ヤード (Par72)」となりました。改修後のコースレートは未取得ですが、以前の総距離7,205ヤードの時でさえ、コースレートは74.9だったので、いかに難しいコースかお分かり頂けるのではないのでしょうか。

コースの特徴は、井上氏の寄稿文に記載されています。自らが“夢の園”と呼んだ理想郷に造ったのですから、あくまでも自然地形はそのままに、①人工的な気分を与えない、②第一印象で魅力を感じた砂丘と黒松林だけの素朴な組み合わせ、③それらの組み合わせを主題にしてコースの戦略性を高める、④バンカーなどに頼らない松の木や松林群を障害物として利用、⑤砂丘のアンジュレーションも戦略的要素を形成する重要な素材とする。などでしょうか。

その後、全国各地に造られた人工的な池やバンカー、様々な花が咲き誇って、見た目が非常に美しい庭園風のゴルフコースと比較されても、井上氏本人は「大洗はこれでいいのだ、これであらねばならぬのだと強く信じ、

自負していると言っているのですから、相当思い入れがあるコースの特徴だと言えます。

### ——名物ホールは何番ですか？

全18ホールです。おそらく当会員であれば自信をもってそう言うでしょうし、私もそう思っています。

でも、それでは原稿が作れないでしょうから、一応私見で紹介しますと、ひとつはHDCP1と最も難易度が高い5番 (450 Y・P4) が挙げられます。人気ゴルフ漫画「オーイ!とんぼ」ではこのホールの難しさについて、「ドライバーでのティーショットの落とし所は松林群 (中之島) 左の15ヤードしかないフェアウェイのうち、右のラフにこぼれない左半分の7~8ヤード」と書かれていました。ティーショットからして狙い処がピンポイントのしびれるホールです。ホールを通じてバンカーはありませんが松林群のハザードにより左右と上空両方から行く手を阻まれる超絶難ホールと言えるでしょう。

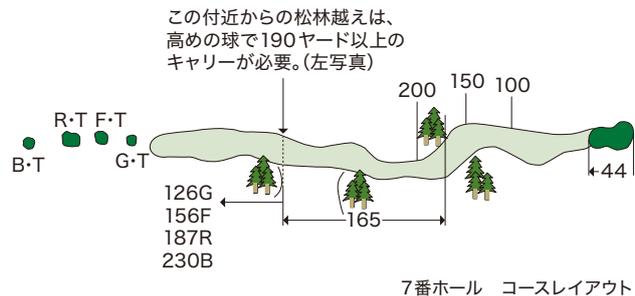
7番 (598Y・P5) は開場当時から現在まで変わらず当コース最長のホールです。第1関門としてティーショットでの飛距離と正確性が必要であり、遠くに飛ばし、かつフェアウェイを捉えた者だけが、第2関門である第2打での松林の島越えショットの権利を与えられるようにしています。もし失敗すれば2打目からは右からの回り道ルートが強いられます。通常の営業ではそこまで難易度は上げていませんが、トーナメントとなると本来の井上氏の設計思想通り、飛距離と



HDCP1の超絶難ホール 5番ホール PAR4



松林群越えと右フェアウェイ方向の選択を迫られる2打目付近 7番ホール PAR5



7番ホール コースレイアウト

正確性を兼ねた者が成功すれば報酬を与えられ、失敗すれば罰を受けるホールにいたします。

16番 (245 Y・P3) は当コースで唯一、海に向かって打つショートホールです。ハザードがない真っ直ぐなコースで、一見簡単のように見えますが、海から吹く正面からの重い風は、思った通りの位置にグリーンオンさせないようにしています。グリーンは右手前と奥の中央に大きなマウンドがあり、ピン位置とは左右逆に飛んだ場合、簡単にはツーパットとはいきません。

17番 (495 Y・P4) は、ある有名プロに「日本一難しいパー 4」と言わしめたホールです。ティーショットは飛距離が出て、左からの海風に負けない強いドローストックボールが必要です。右に流されると距離も出ず、グリーンを狙うのが困難になります。また、うまくドローストックボールを打ちフェアウェイに止まってもグリーンを狙う際に松枝が邪魔になるケースもあります。さらには、第2打でグリーン左に外すと地獄谷と呼ばれる谷が待ち受けており、落ちるとグリーン上がまったく見え

ないアプローチとなります。一方でグリーン右に外すと深いラフとマウンド、そして松林があって、ピンの位置によっては絶望的なほど寄せづらいシチュエーションになってしまいます。まさにこのホールは終盤のカギになるホールと言えるでしょう。

#### ——挑みがいのあるコースですね。

会員の中には、社員の年間出勤日数より多い年間プレー数を誇る方もいらっしゃいます。今日プレーしたら明日もまた来たくようになりますね。

一方ゲストでは、特に腕に自信のある方が多いのですが、普段よりかなり叩いて打ちのめされても何故か喜んで帰ってもらえるケースが多いようで、良いスコアが出ないことに喜びと満足感を感じて頂ける稀有なコースでもありますね (笑)。

また海辺に立地していますので、夏涼しく冬暖かい。雨が少なく、雪は降っても積もらない。年間を通じてプレーしていただけるのもセールスポイントです。



ある有名プロに「日本一難しい」と言わしめた 17番ホール PAR4 2打目付近からピン方向を望む

## コース改修のテーマは「原点回帰」 いつか世界規模の男子トーナメントを大洗GCで

——「名門」であり続けるには、さまざまなお苦勞があると思いますが。

設計者の井上氏もグリーンメンテナンスにはかなり苦勞したと聞いています。砂地に造ったコースなので、雨水はすぐに下へ下へと浸透し表面はすぐカラカラになってしまうのです。開場当初は一つも池がないコースでしたが、今では3か所に池があるコースになったのもグリーンに撒く水の確保のためで、水不足との闘いの証跡と言えるでしょう。

最近の夏場の高温はもはや現在の旧ベントでは耐えられなくなっています。ベントはもともと寒冷地に適した芝ですからね。当倶楽部では異常気象、特に夏場の高温に耐え得るグリーンに変更するため、今年に入ってから、テストグリーンを造り高温多湿に耐えられるとされる新種の3種類のグリーン芝を持ち込みました。芝が生えそろった後は、会員の皆様にパターテストをしてもらいデータを集め、後々には最も良い結果が出た品種でコースのグリーンを入れ替えるつもりです。

コース全体の改修も少しずつ進めています。クラブとボールの進化が顕著で、やはりホールによっては距離を延ばさなくてはならなくなりました。また防砂林・防風林の役割を持つ松林も一時期伸ばし放題だったせいもあって、倒木の危険が生じ、戦略上重要な木々は別にして危険木を中心に伐採し枝葉を切り落としています。さらには、1年前には開場当初存在した2番ホールのフェアウェイバンカーを復活させました。

しかし、それらの改修は我々の好みで処置しているものではありません。我々にとってコースに手を入れるにあたって考える最も重要な視点は、「設計者・井上誠一氏の設計コンセプトに背いてないか？」であり、それ以上でもそれ以下でもないのです。

そう思い実行することは、「井上氏単独では初めての設計コース」、「井上氏の最高傑作」と呼ばれていることを誇りとする我々にとって責務であると思います。

そのような意味から、我々にとって名門とは「The Inoue Seiichi Golf Club」と言い換えることができます。それは「井上誠一氏が設計したゴルフ場の中で、井上氏の設計コンセプトを最も忠実に守り続けているゴルフ場」のことを意味し、これから50年先、100年先もその評価が変わらないことが理想と考えています。

——コースが素晴らしいのはもちろんですが、スタッフの皆さんの接客、レストランの食事、クラブハウスの雰囲気など、倶楽部としてのトータルが、まさに「名門」だと感じます。

ありがとうございます。「名門」と呼んでいただくに相応しい倶楽部であり続けるべく、努めて参ります。

改修時にお世話になっている鈴木則夫プロには、「世界規模の男子トーナメントをこの大洗GCでやっていただきたい。そのつもりで監修しています」と言われていますので、その実現のため精進していきたいと思っています。



クラブハウス

### 大洗ゴルフ倶楽部

〒311-1301 茨城県東茨城郡大洗町磯浜町8231-1 TEL 029-266-1234 FAX 029-266-1232

休場日 毎週月曜日・12月31日・1月1日 プレーは会員同伴又は紹介が必要 <https://www.oarai-golf-club.co.jp>